

Q

学校で友だちがなかなかできないようです。今後のことを考えると心配です。

A
低
中
学
年

小学校に入って、保護者の心配事の一つに、友だちができるかどうかがあります。

性格がおとなしいお子さんの場合、自分から集団の中に入っていけず、なかなか友だちができないこともあります。このような場合には、お子さんの様子を見ながら、グループの中に意図的に入れたり、興味のある習い事をすすめたりする等の支援が考えられます。

また、わがままな行動が目立ったり、自己中心的な考えになってしまったりするお子さんの場合、初めは、仲良く接していた子どもたちが離れ、一人になってしまう事もあります。このような場合には、本人の気持ちを受け止めつつ、友だちとの関わり方について、それぞれの場面に応じて、我慢することや譲ること、上手な気持ちの伝え方など具体的な行動の仕方を教えていく等の支援が考えられます。

いずれの場合にも、人との関わり方については、関わりの中でしか学ばませんので、学校の先生とも相談しながら、支援の方法を考えていけるとよいです。

ただし、友だちの気持ちを理解できなかったり、自分の感情をうまくコントロールできなかったり、こだわりが強く柔軟な対応ができなかったりする場合、発達上の特性が強く出ていることも考えられます。

この場合、関わりをつくったり、行動の仕方を言葉で説明したりするだけではなかなか変わらない事があります。このような時は、学校での様子についてよく確認した上で、必要に応じて、医療機関や教育センター等相談機関に相談することをお勧めします。

また、放課後等デイサービスという、放課後や土・日等に、一人一人の特性に応じた支援・訓練を受けられる民間の事業所もたくさんあります。こちらについては、市役所の子ども福祉課が所管しておりますので、ご相談してみてください。

A 思春期

思春期になると、友だちから自分がどう見えるか気になったり、集団の中での自分の位置が気になったりして自信がなくなり、友だちとの関わりがうまくできなくなってしまうことがあります。また、友だちとのちょっとしたトラブルから友だちとうまく関わる事ができなくなってしまう事もあります。

まずは、お子さんの気持ちをよく聞いてみる事が大切です。友だちとのトラブルがあった場合は、本人がどう思っているのか、保護者に何が出来るか聞き、自分で解決できそうであれば見守り、難しそうであれば、学校に相談してみてください。

また、友だちとの関わりに自信をなくしているようであれば、家ではお子さんのいいところなどについてポジティブな言葉がけをしましょう。

友達とうまくコミュニケーションがとれない、友達との約束をすぐに忘れてしまうなど、人間関係においてトラブルが多くなった場合は、相談機関に相談してみてください。

大切なのは友達の数ではなく、自分の置かれた環境において、様々な要因で移り変わる人間関係を、その時々において有意義なものにしようとする感性を養うことです。お子さんとは、人間関係について話し合ったり、ご自分の経験談を伝えたりするなど、勇気づけてあげられるような声掛けをしてあげるとよいと思います。

コラム

「発達特性③」

発達特性＝発達障害ではありません。発達特性には、強弱や重複があり、子供によって現れ方やそれによって起こる困難は異なります。発達特性そのものは、必ずしも困りごとを生み出すわけではありません。子供に発達特性があり、環境や人間関係との相性が悪い場合、その子と周囲の環境との間に問題が生じます。逆に言えば、環境や人間関係を調整することによって、問題を未然に防げることもあります。

発達特性は、必ずしも短所になるわけではなく、裏を返せば長所にもなり得ます。お子さんの感じ方や考え方、行動の特徴として理解し、お子さんに合った環境の調整や支援の仕方を行っていくことが大切です。

